

— 支部 —

北海道支部

群馬県支部

埼玉県支部

静岡県支部

大阪府支部

大分県支部



各支部の子育て支援事業について

— 今後への提言 —

日本赤十字社が行う子育て支援事業への提言

日本赤十字社広島看護大学教授 飯村 富子



事業実施
までの
経緯

「託児付き講習」に好反応
地域に根ざし、定期的な開催へ



北海道支部における、幼児安全法受講者内訳は子どもの両親よりむしろこれから保育士などを目指す学生やボランティア活動に興味を持つ方や年配の方が多のが現状でした。
幼児安全法の普及方針を検討する中で本来講習を一番必要と

している「小さな子を持つ親」の受講が少ないのは何故か検討したところ、核家族化の進



行により、小さなお子さんを持つお母さんたちが外出時のお子さんの託児に苦慮していることが一因として考えられました。そこで札幌市子育て支援赤十字奉仕団員の協力を得て「託児付き講習」を試験的に開催してみたところ、今までにない応募者層からの受講希望があり、予想以上の反響の大きさに驚きました。また、受講希望者多数のため、受講者の抽選を行う結果となりました。

そこで平成17年度からは定期的開催し、幼児安全法が地域に定着することを目標に子育て支援事業として年2回取り組んでいます。

事業の
効果、成果

お母さんは講義に集中
受講希望も増大

託児を設けることにより、受講者のお母さんたちが講習に集中できるとの感想を頂いています。また、普段外出する機会がなかなか得られないお母さんたちにとっては、気分転換やお母さん同士との交流の場にもなっているようです。毎回テーマを変えて講習を行っているので、再受講を申し出るお母さんたちも多数います。

講習開催案内を市の広報に掲載するたび、受講予定人数を大きく上回り、抽選による受講者決定をしている状況です。



事業を行う上
での問題点、
今後の課題

託児を充実し
全道的な支援事業に
展開!!

現在、託児付き講習は札幌市内でしか行っていませんが、こうした地域密着型子育て支援事業を全道展開していくことが今後の課題と思われます。しかし現在子育て支援奉仕団は札幌にしか結成されておらず、他の奉仕団員の中に託児についてのノウハウを持つ人が見込まれない状況です。



今後は地域赤十字奉仕団員を中心として他の奉仕団員にも託児要領を伝え、赤十字が行う託児支援を定着することが北海道における「赤十字子育て支援事業」になると考えています。

事業の
内容

託児は奉仕団員が担当
支部会議室が託児所に早変わり

講習受講者を対象とし、事前に託児希望の申込を頂き、1回の講習において最大10名の子どもの託児を受け付けています。会場が狭くベビーベッドをお断りするため1歳未満の託児はお断りしており、毎回2、3歳児を中心とし、5名の奉仕団員が託児を担当しています。

託児室は通常、支部の会議室として使用されていますが、託児のときは壁に様々なマスコットの貼付を行い、通常の会議室とは全く違う明るい楽しい雰囲気で行っています。

託児中のおやつは、子どものアレルギーなどに配慮し、原則的にお母さんが持参した物のみを提供しています。また、おもちゃは、奉仕団で作った手作りおもちゃ、絵本などを中心にお使いしています。さらに子どものお気に入りの

おもちゃを1点持参してもらい、子どもができるだけ気を紛らわせることの出来るような工夫をしています。



幼児安全法は、子どもを大切に育てるために、幼児期に起こりやすい事故とその予防、手当の実際、かかりやすい病気と看病のしかたなどの知識と技術を習得できます。受講について詳細はP.76~P.77

託児室見取り図

●黒板、椅子は別室に移動。テーブルを「荷物置き場」として使用。



座談会

地域で連携して行う子育て支援事業

- 参加者**
- 幼児安全法受講者 渡辺 朗子
 - 北海道子ども未来推進局 主査 段城 邦彦
 - 札幌市子育て支援総合センター 課長 高橋 由紀子
 - 子育て支援赤十字奉仕団 委員長 伊藤 米子
 - 子育て支援赤十字奉仕団 副委員長 町屋 こずえ
 - 日本赤十字社北海道支部 事業部長 瀬戸 俊博
 - 日本赤十字社北海道支部 事業推進課 課長 熊谷 吉高



日 時：平成18年12月8日 13時30分～15時30分
会 場：日本赤十字社北海道支部

◆ 託児付き講習を支援事業の重点活動として推進

平成16年「札幌市子育て支援赤十字奉仕団」誕生

瀬戸 日本赤十字社では平成16年から子育て支援事業を重点事業の1つとしてすすめてきております。

北海道支部でも平成16年の幼児安全法講習の中で、札幌市赤十字奉仕団の方々の協力を得まして第1回目の託児付き講習会を開催いたしました。昨今、核家族化が非常に進んでいる中で札幌市において託児付の講習をするということは、子どもの病気やケガに対する予防・対処に対する知識を持つお父さん、お母さんが増え、子どもが健やかに育つということになるのではないかと思います。今回の事業を計画させて頂きました。平成17年、18年と、継続して託児付き講習を子育て支援事業として行っており、平成16年、幼児安全法指導員が集まって「子育て支援赤十字奉仕団」が、北海道で初めて誕生し

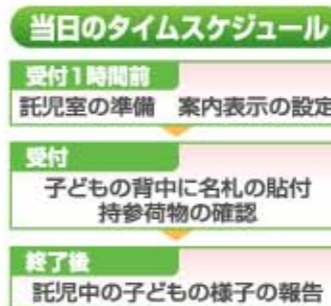
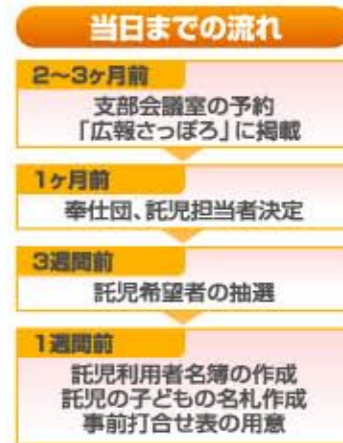


瀬戸 俊博
北海道で初めて誕生し

ました。そして同奉仕団の新しい事業として、子育て支援事業への協力をいただき今日に至っております。早速ですが、事業実施に向けてご協力いただきました子育て支援赤十字奉仕団から、奉仕団の紹介、この事業を進めるに当たってどういったことを重点に置いたかお話ししたいと思います。

町屋 私たち札幌市子育て支援赤十字奉仕団と言うのは、幼児安全法講習を通して子育て中の保護者の方たちが少しでも自信や安心感を持つて子どもの健全な育成をできるように子育て支援することを目標といたしまして平成16年に結成した奉仕団です。平成17年2月に当奉仕団において初めて託児付き講習を行いました。その際、託児に関するの備品・マニュアルなどは完成といえる状態ではなかったのですが、支部、他の子育て支援団体からの協力を得て第1回目を無事終えることが出来ました。毎月行われている奉仕団定例会の中で、実施した講習全体の反省と、改善点を話し合った中で、危険箇所の改善・手作りおもちゃの作成などを行い、少しずつ

子育ての経験を活かした事業を計画



DATA

- 事業の頻度 1年/2回
- 参加人数 10名
- 活動の費用、財源 なし

※連携の状況
事業開始当初は、北海道支部として企画し、札幌地域赤十字奉仕団・札幌市子育て支援赤十字奉仕団の協力を得ていましたが、今年度から札幌市子育て支援赤十字奉仕団が奉仕団活動の一環として積極的に託児を実施しています。奉仕団として託児のマニュアル・託児の際の避難誘導法を作成しています。札幌市子育て支援赤十字奉仕団員は、団員全員が幼児安全法の指導員からなる特殊赤十字奉仕団です。団員の中には元保育士や札幌市の子育てボランティアや子育て経験者であるため、各自の経験を活かしてお子さんをお預かりしています。



● 子どもの事故予防の為に、会議室のスチームの周りには、ダンボールなどを用いてガードを作成。

● 万が一に備えて、「避難誘導マニュアル」を作成。託児を行う奉仕団員、講習を行う指導員と十分に打合せをした上で、開催。

● 子どものおやつ、水分などに関しては保護者の用意した物のみ使用。



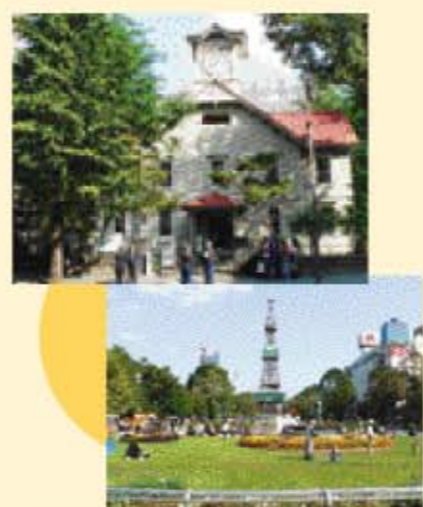
事業実施の際の注意事項
避難誘導
マニュアルを作成
事故予防は万全に

地域紹介

札幌の中心、北海道の観光名所に近接する北海道支部

北海道支部は、北海道の空の玄関「新千歳空港」からJRで約40分、札幌駅からは徒歩10分の札幌市の中心に位置します。

周辺には北海道庁や北海道警察本部、様々な企業が入ったオフィスビルが立ち並んでおり、北海道の観光名所の一つである「北海道庁赤レンガ庁舎」「大通り公園」も支部から徒歩3分の位置にあり、多くの観光客はもちろんお昼休みには緑の癒しを求めめるサラリーマン、OLでにぎわっています。オフィス街でありながら、緑豊かな自然に囲まれている、そんな北海道らしい環境に恵まれた場所に北海道支部は位置しています。



地域コミュニティが低迷 育児休業制度などにも遅れが

平成17年度の北海道の*合計特殊出生率は、1.15で、全国平均の1.25を大きく下回り、47都道府県中4番目に低い状況です。ここ数年この状況は変わっていません。

北海道の少子化の要因としては、未婚化や晩婚化傾向があるほか、育児休業制度を既定している企業の割合が全国平均の61.6%に比べ53.9%と低く雇用環境の整備の遅れも原因の1因であることが考えられます。また、核家族化の進行や地方の過疎化により、地域コミュニティが低迷し地域における子育て支援が得られにくい状況になると予測されます。特に、第1次産業が中心の北海道において地域コミュニティの低迷は育児と仕事との両立に支障をきたすことが懸念され、地域における子育て支援の促進が望まれます。



*「合計特殊出生率」人口統計上の指標で1人の女性が一生に生む子どもの数を示す。



町屋こずえ

すがマニュアルができてきました。実際にお子さんと接することで、私たちが自身が改めて託児に必要なことが

理解できたのです。そしてまた、託児経験者などのアドバイザーを基に奉仕団員全員が託児を出来るようにマニュアルの作成を行って現在の形となりました。私たちも託児をすることで子どもから教わることもたくさんありまして、幼児安全法の講習を行う際にも託児の体験が話の幅を広げることができました。

また、子育て中の保護者の方にとつても幼児安全法の知識・技術を一番必要としていると思います。そこでお互い必要とすることによって子育てが良い方向に向かっていくのではないかと思います。

渡辺 今回講習を受講した渡辺です。すごく(講習が)よかったのですよね。1回目を受けて、2回目の開催が広報に載ったときも、はりきって申込みました。やはり、定期的に

技術で復習をしていかないと、いざというときに使えないなあと思っていたので。子どもと離れて、自分ひとりの時間を持ち、何かに打ち込むのは何ヶ月ぶりだろうという感じでした。そういうこともありつつ、技術も学べて、子どもの為になるっていうのはもっとドンドンやって欲しいです。

もっと子育て支援の活動を広める工夫が大事

瀬戸 託児の際の事故防止対策などはありますか。

町屋 避難マニュアルを作成し、講習をしている指導員からお母さんたちに講習前にお話をしています。また実際に保護者の方がお子さんの健康状態を所定の様式に記入してもらっています。アレルギーを持つお子さんが多いので、託児の際には必ず持参したものを除外して与えないということを徹底して行っています。そしてミルクの与え方、排泄はどのようにしているかなど、保護者の方と託児担当者で打合せをしてから講習会場に行っていると思います。

かうまくいっていない部分があるのですが札幌市子育て支援総合センターの高橋課長さん、いかがでしょうか。

高橋 利用する側の気持ちというのは言われてみると本当にそうだな、と思っています。情報の共有化提供は日々私たちの課題としているところと同じです。うまく情報を知って、それを有効活用しながら子育てをしてもらいたいと思っているのですが、今、言われたようにそれぞれのごころで行事をひとまとめにして提供するというのは本当にいいアイデアだなと思います。

また、札幌市でも子育て支援事業をスタートした時から、子育て中の女性も社会参加できる機会を作っていく為に「託児」というしくみをセッティングすることで参加しやすくなるという考え方を考えています。



高橋由紀子

渡辺 広報さつぽろの、「子ども用」ってあればいいですね。

瀬戸 今、お話があったように行事・講習日程的なものを住民に知らせる周知の仕方が横の連携がなかなか

「託児付き」のセットで、安心して女性も社会参加が可能に

渡辺 講習会の目的はお母さんたちに幼児安全法を学んでもらって、何かあったときに対処できるようにするのが一番だと考えると、もっと色々なところで行ってくれた方が行きやすいです。例えばお母さんたちが10人いたら2グループに分かれて子どもを見ているグループ、幼児安全法の勉強をするグループで時間が経てば役割を交換するとか。こういう位のレベルのものがたくさんあれば、もっと子どもたちの安全も確保されると思います。子育て支援センターでも週2回赤十字の人が2人きて、教えてくれるようになったら、「あら、じゃあ、ちよつと行こうかしら」とか「あらちよつと話聞いてみようかしら」とか、思うのではないのでしょうか。30分、1時間ちよつと学んで、その後はお母さんたちが交代してこちらの子ども



渡辺明子

面倒をみるとか、そういう軽いタッチのものもドンドンあればいいと思います。広報さつぽろだけじゃなく、もう

瀬戸 今言ったように大人バージョンと子どもバージョンみたいなちょっととした工夫で簡単に情報が得られますね。確かに情報の供給はたくさんあると思うのだけど、情報を求めている人が、何をどこに行けば、必要な情報をとれるかというのが分からないと思います。

渡辺 幼児安全法を地域毎でやるのもいいけれども、ピンポイントで行うという方法もあると思います。

子どもたちの笑顔。子どもたちにとつても「託児付き」はプラス。

瀬戸 今回「託児付き」という新たな試みで実際やっているんですが、託児が付いていなければ受講者は減りますか。あったほうがいいですか。

渡辺 託児も私のように利用する人はどんな行事でも利用し、しない人っていうのは、絶対しません。子どもが心配で他人に預けるなんて、と思うようです。でも絶対子どもは預けたほうが楽しいです。

瀬戸 預けることによってマイナス



とこうした講習を宣伝して欲しいと思います。幼児安全法はお母さんたちが絶対学ばべきことだもの。私は、子育て支援センターも利用しているのですが、すべての情報が共有されていません。札幌市には施設がありすぎるくらいあって、施設毎の子どもへの行事っていうのを札幌市の1つの場所で開催できないのかなと思うのです。例えば体育館で親子の為の何かがある、子育て支援センターでは何かがある、赤十字では幼児

思考に考えちゃうんですね。

渡辺 そうですね。私たちの世代って小さいときに両親が働いて保育園にいる子はちよつとかわいそうって思うてしまう世代なのです。今はそういうのが当たり前時代だけれど、そういうのは無きにしても非ずなんです。でも今の世の中という保育園とか行ったりした方が絶対に子どもの方にはいい環境なんですけど、託児に対して拒否反応起こしてしまっている人がいます。そういうことを思わせない為にも託児付きの方が絶対いい。幼児安全法のやった後のす





ばらしさとか、託児のときの子ども
の楽しそうな写真とか、お母さんた
ちの声とかは広報されません。やりつ
ばなしといったらすごく失礼な言い
方になるのだけど、どこかで報告し
ているのかもしれないけど、結果がみ
んなの目に触れないのが問題ですね。
こんなにやったら楽しかったとか。

町屋 (託児付き講習を) 始めて1
〜2年経ったのですけれども、実は
そういう考えが私たちの中には全
くなくて、本当に託児と講習を充
実させることに目がいっていたので、

渡辺さんの意見はすごく参考にな
りました。今後はどういう形でもい
いますが、皆さんに知って頂きたいで
す。託児中の子どもたちのここにこ
した顔ってすごく私たちが救われる
のですよね。そういうことを皆さん
に知って頂けるような取り組みで
必要になってくるのではないかと、ま
た例会のほうで提案させて頂きます。

瀬戸 北海道として今、子育て支援
の少子化対策の中で色々取り組ん
でいると思うのですが、その辺の現
状など何かありましたらお願いします。

**子育て支援情報を、
インターネット「子育て
北海道」で発信**

段城 情報の提供を1枚の紙に集
約して(家庭に)送れるというのは理
想ですが、(多くの機関・組織の)情
報を1つにするというのはなかなか
難しいのです。代わりにはならない
かも知れませんが、「子育て北海道」
と言うインターネットのポータルサ
イトができて、作るときに北海
道が支援し、運営はNPO法人北海



道子育て支
援ワーカース
と札幌チャレ
ンジドが行っ
ています。イ
ンターネット
上で子育て
支援の情報を
を総合的に

集めて見て頂くようなしくみを作っ
ています。日本赤十字社さんの幼児
安全法もこれに載せられればと思
います。カテゴリーに分けて情報を
引き出すしくみになっていて、予想
を超えるアクセスがあり、見た方に
は、良かったと頂いています。北
海道では「せわすきせわやき隊」(通
称「すきやき隊」)という地域の子
育て支援ボランティアを推奨してお
り、現在42の市町村で活動がなされ
てますが、北海道全体で知られて
るとは言い難い。大企業は(子育て
支援を)やっていて当たり前で、やっ
ていないと企業とは名乗れないとい
う感じはありますが、中小企業はな
かなかそうはいかないようです。北
海道は中小企業が多いので、育児休
暇の取得率も低いようです。合計特
殊出生率は、日本では2.08前後の
数値がないと現在の人口が維持で

人と人とのコミュニケーションが下手
になってきていて、(近所の)関係が
希薄になっており、こういう「託児付
き講習」があるのだけれども、行政・
企業という前に私たちが地域に根
付いてコツコツやっていることが子
育て支援っていいことじゃないでしょ
うか。

高橋 札幌市も子育て支援事業が
スタートしたのは平成9年。親も子
どももお友だちが欲しいということ
で最初はサークルづくりとサロンの提
供からスタートしました。出会って
おしゃべりできるようになり、自分
だけの悩みだと思って話してみると、
皆同じような気持ちでいたことを
知り、ホッとしたり。そこで仲良くな
って仲間作りができる、分からない
ことを聞き合う関係が生まれてき
ます。このように、集う場所が身近
にある必要性を感じ、事業を推進
しております。

を超えました。孤立しない孤立さ
せない子育てにする為に、様々な取
り組みを進めています。ボランティア
の方々と地域の支援者の方々に支
えていただいております。

瀬戸 やる側にとって見ればボラン
ティア的な要素もある中で、そうい
う人がいないとできないし、ボランテ
ィア活動は楽しくなければ継続で
きないですね。

段城 私が子どもの頃は、まわりの
大人に怒られました。今は(子ど
もに声を掛けたりすると)不審者
扱いです。それは知らない叔父
さんだからです。そういったことを
解消しましょうということ、それか
ら子育て中のお父さん、お母さん
(地域の中で)孤立させないようにし
ましょうというのがすきやき隊です。
託児でいうと、託児を会員制にして
やる運動もある。本別町さんの例で
は、(あるお母さんが)転勤族で知
り合いがなく、最初は不安もあつた
けれども(子どもをすきやき隊の隊員
の方に)預かってもらったところ、そ
うち子どもが慣れて、自宅に帰らな
いというまでになったそうです。
預かる(隊員の方)のほうも、おじい
ちゃん、おばあちゃん気分という間



柄ができて、
これは大変
成功してい
るすきやき
隊の例であ
ると思ってい
ます。

渡辺朗子 NH
K教育テレビで「すくすく子育て」
という番組があるんですが、子育て
しているお母さんは必ず見ているよ
うです。そういう番組で赤十字の幼
児安全法講習などを取り上げてく
ればと思うのですが。

瀬戸 情報の提供の仕方もある考えて
いかなければならないですね。今回、
初めて子育てに関する座談会を開
いてみて我々の知らない部分も習得
しました。少子化という大きな問
題の中でみんなが手を取り合っ
ていよものにしていかなければなら
ないのかなと思います。今後とも赤
十字にご理解ご協力頂きますよう
願って終わりにしたいと思います。
今日はありがとうございました。



DATA

支部 **日本赤十字社 北海道支部**

〒060-0001
北海道札幌市中央区北1条西5丁目
TEL : 011-231-7126
FAX : 011-231-7128
URL : http://www.hokkaido.jrc.or.jp/

●職員数.....25名(平成18年4月1日現在)

MAP

札幌駅
地下鉄南北線
地下鉄東西線
道庁
道庁日本庁舎(赤レンガ)
道庁
道庁
北大付園
植物園
道民活動
センタービル
日本赤十字社北海道支部



町屋こずえ
きには近所
の人が「預
てあげるか
らいつてら
しいよ」と
言ってくれ
たんですね。
でもやっぱり

町屋 私の子育てしている時代には
「託児付き講習」はなかったですね。
そういうと
きには近所
の人が「預
てあげるか
らいつてら
しいよ」と
言ってくれ
たんですね。
でもやっぱり

高橋 いえいえ1を切りました。0.
98です。
段城 都道府県では下から2番目。
日本の人口は嫌でも減るしくみです。
少子化は北海道においてはかなり
深刻で2030年には90万〜100
万人減るのではないかとわかれて
います。出産は個人の生き方の問題で
すから、少子化対策といえは子育て
支援が主になります。少なくとも「産
んで育てたい」と思っている方を支
援するような体制作りをしなければ
ならないと思います。

事業実施
までの
経緯

「ぐんま子育てヴィジョン」に
幼児安全法の実績で支援

群馬県では「子どもを育てるなら群馬県」の基本理念のもと、子どもを生み育てやすい環境の整備を推進しています。「子どもにやさしい社会システム」を築くことが、少子化の解消につながるとの観点から、平成17年度から5ヶ年計画で「ぐんま子育てヴィジョン」を策定し、子育て支援を推進しています。今後は、全ての人



「心肺蘇生法を訓練用的人形で練習する受講生」
小児の身に万が一の事態が起きたとき、薬や器具などを用いずに、一般の方が手当てできるようにする幼児安全講習を、赤十字では実施しています。

に子育てに対する関心を積極的に持ってもらい、社会全体で力を合わせて子育てに取り組んでいくことが急務です。本講座の受講対象者は、すでに県及び市町村で子育て支援活動を行っている県民なので親と子どもの両方に接する機会のある指導者が、普段何気なく行っている子どもへの接し方や教育のあり方を再確認し、また新たに専門家などから教授いただき、それぞれのスキルを上げることが本講座の目的です。特に子どもの事故や病気に対する手当てについては、一分一秒を争う場合があり、知識の有無は決定的な違いがあります。
日本赤十字社が幼児安全法を行っていることから群馬県支部として群馬県で行う子育て支援スキルアップ講座に講師派遣の協力をすることにしました。

事業の
内容

すぐに使える実践的な
子育て講座を実施



「アイデアを出し合っておもちゃ作りを進める参加者」

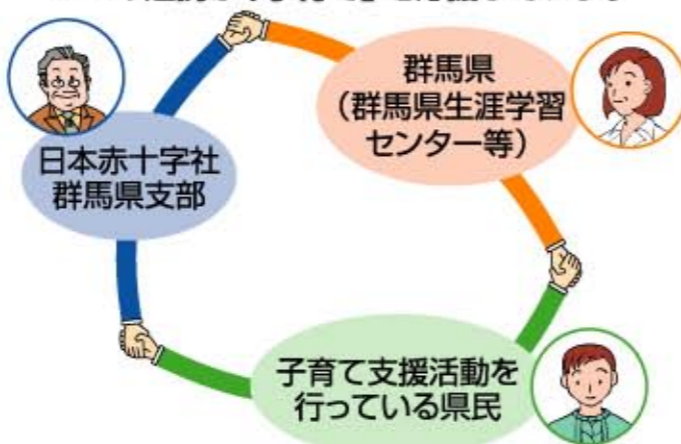
群馬県主催「子育てスキルアップ講座」ではまず、乳幼児の発達の過程には周りの大人のサポートが常に必要で、子どもの発達の程度を見極めながら大人からの期待と子どもの発達状態をうまくかみ合わせる事が重要であるという内容の講義と演習があり



幼児安全法は、子どもを大切に育てるために、幼児期に起こりやすい事故とその予防、手当の実際、かかりやすい病気と看病のしかたなどの知識と技術を習得できます。受講について詳細はP.76～P.77

ことは、初めて参加する人はもちろん、講習の経験者にとっても復習ができたため好評だったようです。最後のワークショップ「親子で遊ぼう」では、ベビーマッサージやわらべ歌、おもちゃづくりなどを行い、コミュニケーションの大切さを学びます。
子育て経験者から直接教わることの少ない現代の親にとって、こうした実習は新鮮であり、すぐに実践できる実用的なものです。実際に子どもと遊んでみて、子どもの成長、発達の過程を大人が感じる必要性を学びました。

3つの連携が「子育て」を応援しています



心肺蘇生法

意識の確認 意識があるかどうかを確認します。

幼児

●●ちゃんどうしたの？
大丈夫！

肩をたたく

- 肩口に膝をつき
- 肩を軽くたたきながら
- 耳元で声をかける

乳児

●●ちゃんどうしたの？
大丈夫！

足の裏をたたく

- すねのあたりを支え
- 足の裏をたたきながら
- 耳元で声をかける

事業の
効果、成果

万のときの
大きな支えに
なる講習と好評

子どもの行動に気になる点や万が一があったとき「どう対応するべきか」、また「親への伝達の仕方」などについて、大いに参考になったとの感想が寄せられました。特に幼児安全法は、体験するとしないうちでは大違いで、いざという時には大きな力になることを認識いただきました。参加者からは心肺蘇生法の技術だけでなく、病気やけがの予防法や食事の注意点なども教わり、新たな発見があり大変勉強になった、との声が多くありました。

事業を行う上
での問題点、
今後の課題

支部では積極的に
応援。ボランティア
指導員派遣も視野に

群馬県生涯学習センターによると、受講者からの反響が良く、また本講座を受講する指導者が増えることで、所期の目的を効果的に達成できると思われるため、今後も継続して実施したいとのこと。反省点としては、ベビ-



マッサージや手あそびの内容については対象年齢が広すぎたため、参加者とおしの交流が図りにくかったことがあげられます。
今後は対象年齢を絞り、グループディスカッション等を新たに組み入れて、参加者がコミュニケーションを図れるよう努めたいとのことでした。
日本赤十字社群馬県支部としては今後このような事業に対し、子育て支援の観点からも積極的に関わっていき、看護師指導員だけでなく、ボランティア指導員も派遣したいと思えます。今後、各地区区分区においてもこうした講座が計画される傾向があり、赤十字への要請が増えることが見込まれます。

事業実施のスケジュールと当日の流れ

県と共に2ヶ月前から準備。実用的な講座を用意

当日までの流れ

群馬県では、実施2ヶ月前に募集チラシを市町村教育委員会、社会福祉協議会、NPOボランティアサロンへ配布。その他地元新聞に掲載

日赤群馬県支部では、実施2ヶ月前に幼児安全法講習会の依頼を受け、指導員に打診。

病院看護師2名を決定し、詳細は指導員と主催者と打合せの上実施

当日のタイムスケジュール

日	平成18年	午前	午後
1	6/10 (土)	[開講式] 9:45~ 4F 第2研修室 開講と演習「乳幼児の発達理論」 講師 共愛学園前橋国際大学 教授 山本 登志哉 4F 第2研修室	実習「幼児安全講習」 講師 日本赤十字社 群馬県支部 指導員 4F 第2研修室
2	6/24 (土)	ワークショップ「親子で遊ぼう」 (内容:ベビーマッサージ、わらべ歌、手遊び 等) 講師 群馬県生涯学習センター 子育てボランティア 4F 第2研修室	ワークショップ「親子で遊ぼう」 (内容:漢字を使ったゲーム、親子で遊べるおもちゃづくり 等) 講師 群馬県生涯学習センター 子育てボランティア 4F 第2研修室
3	7/1 (土)	「子育て支援ネットワーク集会」への参加(13:00~16:00) 1F 他目的ホール	

DATA

- 事業の頻度 1年/1回
- 活動の費用、財源 0円

群馬県生涯学習センターでは同センターに登録している子育て支援ボランティアのメンバーをスタッフに依頼しました。これらの団体は毎週火・金曜日に交代で月1回のペースでセンターに来所し、子どもの面倒はもちろん、親に対しても子育ての悩みに応じたリ、本事業で行った遊びなどを教えています。このメンバーは元幼稚園・保育園の教員も多く自らの知識・経験を活かせることに誇りを感じています。また日本赤十字社群馬県支部では、15名の受講生に対して指導資格のある日赤病院の看護師2名を派遣しました。

連携の状況

保育や看護の経験も取り入れ、多彩な活動実現

地域紹介

名物は「雷とからっ風」
利根川を臨む郊外に群馬県支部

群馬県は関東平野の端に位置し南東が平野部、その他が山岳部となっています。人口は二百万人余りですが、そのほとんどが平野部に集中しており、商工業の中心は必然的に平野部に偏っています。気候的には、海から離れた内陸にあるため、海岸地方に比べ高温になりやすくなっています。

夏には山が多いことから雷雲が発生しやすく冬には日本海からの乾燥した風が舞い降り、本県名物として名高い「雷とからっ風」のもととなっています。

前橋市はこの「恩恵」を良くも悪くもまともに受けている平野部にあり、当支部は前橋市郊外の田畑が多数残り、すぐそばに利根川が流れるのどかな所にあり、今回事業を実施した群馬県生涯学習センターも、支部の近くにあり



子どもを育てていくことがあっても回答しており、子育てによる喜びの面も非常に高いことから、子育てを社会全体で支援していくという子育ての「社会化」の観点に立った施策推進が求められていることがうかがえます。

子育ての喜びと不安を持つ親 社会全体の支援が急務

群馬県の平成16年特殊出生率は、1・35で平成16年全国平均の1・29を上回っているものの、現在の人口を維持する水準を大幅に下回っています。

「少子化に関する意識調査」によると、その原因としては晩婚化・育児に対する負担感や拘束感が大きい等の回答があげられています。また子育て中の親への実態調査でも、子育てに対する負担感を持っている状況がうかがえます。一方で、ほぼ100%の親が子どもを育てていくことがあっても回答しており、子育てによる喜びの面も非常に高いことから、子育てを社会全体で支援していくという子育ての「社会化」の観点に立った施策推進が求められていることがうかがえます。

評価コメント

群馬県が行う子育て支援事業と日本赤十字社との連携



本県では、「子どもを育てるなら群馬県」を基本理念として、子どもたちが健やかに成長し、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを推進しています。

このような中、群馬県生涯学習センターでは、平成17年度から市町村の公民館など社会教育施設において子育て支援活動を行っている県民を対象として、講義、演習、ワークショップを通して支援活動に必要な知識・技能を研修する機会を提供する「子育て支援スキルアップ講座」を開設しています。

日常生活において、子どもたちは大人に比べて病気やケガが多いものです。そこで、日本赤十字社群馬県支部(以下、「日赤」と言う。)が行っている「幼児安全法」のプログラムを導入することを検討しました。日赤の「幼児安全法」では、就学前の子どもに限定した救急法を実施しており、講座の対象者にとっては、日常的な子育て支援活動の実際に極めて有益な内容と考えました。

群馬県生涯学習センター 学習振興グループ 指導主事 角田明大

当日は、乳幼児期の発達、子どもに起こりやすい事故の予防と手当及び幼児の模型を用いた人工呼吸と心臓マッサージについて、テキストに添った説明をさせていただきました。また、事故や急病で病院に運ばれる方の救命率を高めるためには、救急車が現場に到着するまでの間に行う応急手当の実施が極めて重要であるということ、そして、「幼児安全法」などの講習を一人でも多くの方が受講することを痛感しました。

出生率の低下による少子化が進行する中、本県でも、核家族化や共働き家庭の増加、地域における地縁的なつながりの希薄化など社会状況の変化とともに、子育て不安の増大や負担感への対応が課題となっています。こうした状況を踏まえ、群馬県生涯学習センターでは、今後の事業展開として、子育て支援サークルの方々を対象としたスキルアップ研修会の実施とともに、こうしたサークルの活動者、子育てに関する専門家・行政職員等が一堂に会して子育て支援ネットワークを形成し、連携してより効果的な子育て支援の輪を広げるような条件整備を推進していきたいと考えています。

DATA

支部 日本赤十字社 群馬県支部

〒371-0833
群馬県前橋市光が丘町32-10
TEL : 027-254-3636
FAX : 027-254-3637
URL : http://www.gunma.jrc.or.jp/

●職員数.....15名(平成18年4月1日現在)

MAP



事業実施までの経緯

地域に密着した赤十字奉仕団が行う防災教室

平成15年日本赤十字社埼玉県支部から、社会のニーズにあつた赤十字奉仕団活動として、子育て支援に取り組み、青少年赤十字加盟校の子どもたちと二日体験学習を推し進めて頂きたいと、私たち赤十字ボランティアである埼玉県鴻巣市赤十字奉仕団に依頼がありました。丁度その頃、私たち奉仕団も地域の中でもっと密着した活動ができないかと、思案していたときでしたので早速、鴻巣市役所事務局と相談をし、平成16年1月7日に教育長に相談に参りました。すぐに賛同して頂き、2月5日の鴻巣市立小・中学校の校長会で図る手配をして

「奉仕団とPTAの事前準備」



平成16年6月12日に「親子で学ぶ防災教室」が決められました。

頂きました。

校長会で私たちの主旨を話し、平時のときこそ、子どもたちと保護者の方たちと一緒に、もしもの災害に備えた訓練の大事さを伝えました。2ヵ月後に鴻巣市立東小学校の田中昌子先生から連絡を頂きました。その後、学校側、PTA役員の方たちと会議を重ね、平成16年6月12日に「親子で学ぶ防災教室」が決められました。

「集まった児童に熱心に教える奉仕団員。「お水はここまでよ」



事業の内容

楽しく、美味しい防災講習。
応急手当と炊飯・カレー作りをいっしょに

平成16年6月12日、午前9時30分から11時30分まで、埼玉県鴻巣市立東小学校校庭で、第1回「親子で学ぶ防災教室」が開催されました。高学年・低学年を縦割りに10グループに分けて非常炊き出しを実施。お米が炊き上がるまでに高学年は、三角巾を使った応急手当を、低学年はハンカチを使った応急手当の練習をしました。参加人数は、子ども98名、保護者88名、教職員4名、奉仕団員40名、講師として埼玉県赤十字災害救援奉仕団員5名



事務局6名(県支部3名・市3名)の合計241名でした。第2回は平成17年6月10日、時間、場所は前年度と同じです。非常炊き出しではカレーを作り、お米とカレーを一緒に釜に入れて煮て、カレーライスを試食しました。三角巾を使用しての応急手当講習は前年度と同様に行い、参加者は215名でした。

第3回は平成18年6月12日、場所、時間などは前年度と同じスケジュールで、学年別に分かれて非常炊き出しを実施。三角巾を使って応急手当の練習をしました。参加者は193名です。

連携の状況

楽しく、仲良く、一人ひとりが進んで事業を推進



奉仕団紹介

○鴻巣市赤十字奉仕団(地域赤十字奉仕団)
平成18年4月1日には市町村合併に伴い、吹上町赤十字奉仕団及び川里町赤十字奉仕団と合併し、市内のクリーン活動、防災訓練、献血会場のお手伝いや日赤フレイバーに参加。「無理せず、出来る時に出来る活動」が合言葉ですが、災害時の募金活動はほぼ全員が参加しています。楽しく仲良く活動できるように頑張っています。

○埼玉県赤十字災害救援奉仕団(特殊赤十字奉仕団)
災害救援・防災を目的に結成された奉仕団です。平時は「赤十字防災ボランティア養成セミナー」等で、県民の皆さんに防災意識を普及、また、美徳的な救援活動が展開できるような各種、訓練や研修を実施しています。平成16年「新潟県中越地震災害」「新潟県豪雨災害」時の復興活動や平時の防災普及・指導が評価され、平成18年9月8日に平成18年度防災功労者防災担当大臣表彰を受賞しました。

青少年赤十字紹介

○青少年赤十字とは…
青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、すすんで赤十字運動に参加することを通じて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら作り上げることを目的とした事業です。青少年赤十字は、教師等を指導者として、幼稚園・保育所・小・中・高等学校の中に組織され、学校教育・幼児教育の中で進められています。

埼玉県内の奉仕団状況(平成18年4月1日現在)

地域赤十字奉仕団(市区町村等の地域ごとに組織されるボランティア)	58団
特殊赤十字奉仕団(災害救援、マジック等特殊な技能や特技を持つ人々で組織されるボランティア)	10団
青年赤十字奉仕団(社会人、学生などによって組織されるボランティア)	4団

事業の効果、成果

災害時に役立つ応急処置講習。実習と経験が自信に

炊飯袋を使用した非常炊き出しとは



熱に強いポリエチレン袋にお米と同量の水をいれ、中の空気を抜いて輪ゴムで口をしっかりしぼる



沸騰したお湯の中で煮ることで、お米を炊きます。これは、にぎり飯に比べて衛生的であり、また、均一量の御飯を大勢の人に配ることができるので災害時の炊飯法として適しています。御飯と一緒に、梅干、かつおぶし等の具を入れることも出来ます。

受講者の感想

親子で学ぶ防災教室では、予行演習及び本番と、親切で適切な指導をして頂きありがとうございました。当日の児童たちの反応も良く、カレー作りも楽しく、味も美味しいと、好評でした。三角巾を使った応急処置では、最初はできなかったけれど、慣れてくると上手にできるようになっていました。今回参加された親子ともどもよい経験ができたと思います。機会があれば、また参加して、いつ起こるか分からない災害時に役立てられるとよいと思います。

東小学校 文教部 福田典子

事業を行う上で
の問題点、
今後の課題

より楽しく、興味を
持てる活動を

今年で3年目になり、初年度に興味深く、熱心に取り組んでいた子どもや、保護者の方たちも、同じことを繰り返し訓練に少し慣れて、飽きが出て来たようです。1年生から6年生まで年齢差がある子どもたちに、今後、より楽しく、興味を持てる内容を提供するため、工夫・検討していくことが大きな課題です。



事業実施の
スケジュールと
当日の流れ

市、学校、支部と
共同で計画・実施

当日までの流れ

- 5月22日 埼玉県支部へ資材の協力を依頼
- 5月23日 東小学校PTAとの打合せ
- 5月27日 埼玉県支部 資材準備
- 5月29日 東小学校と合同で練習
(非常炊き出しとカレー作り)
- 6月9日 再度東小学校の役員と打合せ
前日準備

当日のタイムスケジュール

- 8:00 奉仕団員集合。材料の準備、備品を各テーブルへ配置
- 8:30 埼玉県支部 移動炊飯器2台搬入
- 9:30 開会
- 9:50 各班に分かれ奉仕団員の指導で子どもたち1人ひとりが釜に始める作業を行う(非常炊き出し)釜に入れて、でき上がるまでの間に応急処置の指導を行う(三角巾を使って、頭と腕の怪我の処置方法を学ぶ)

- 11:00 試食中に後片付け、備品確認
- 11:20 講習終了
- 11:30 閉会 おみやげ(風船とバンドエイド)を配り、解散



事業実施
の際の
注意事項

事故や怪我には
充分注意。調理
材料にも心配り

● 参加人員が多いため4つの炊き出し釜を使用。終わった後、釜が冷たくなるまで、一つの釜に2人の担当を配備して、事故や怪我の防止対策を実施。
● 17年から非常炊き出しを実施しているが、カレーの材料が、全てきちんと火が通る大きさに揃え、子どもたちに同じ大きさの、同じ量を提供できるようにしている。

DATA

- 事業の頻度 1年/1回
- 参加人数 193名(平成18年度)
- 活動の費用、財源 20,640円
(鴻巣市赤十字奉仕団活動費の研修費)



地域紹介

伝統が息づく、
花のかをりが漂う鴻巣市

鴻巣市は、昭和29年9月30日、埼玉県下17番目に市制を施行した歴史ある市です。古くは中山道の宿場町として栄え、江戸時代に伝えられた人形づくりの伝統を大切に、昭和初期の最盛期には120軒もの人形店が軒を連ね、関東三大雛市の一つとして名を馳せた町でもあります。現在は埼玉県指定の伝統工芸品として、日本全国へ送り出しています。



また、全国でも屈指の花の鉢物産地として知られ、フラワー通りには、花木栽培農家のビニールハウスが立ち並び、東日本最大級の花木市場フラワーセンターが開設されています。荒川の河川敷には、ポピーやコスモスが住民の手で植えられ「ひな人形と花のまち」として、伝統産業と自然が調和した佇まいをみせています。

評価コメント

支援事業を活性化
「親子防災教室」地域から県全域へ



埼玉県鴻巣市は、埼玉県のほぼ中央に位置しています。古くは、中山道の宿場町として栄えた歴史ある市で、平成17年10月には、隣接する吹上町、川里町と合併し、新たな鴻巣市として誕生しました。

鴻巣市赤十字奉仕団では、「埼玉県支部から赤十字奉仕団と青少年赤十字加盟校との交流を推進したい」との意向と、「奉仕団として地域ともっと密着した活動を」との声を受け、平成16年から鴻巣市立鴻巣東小学校との活動が始まりました。

また平成17年度から2年間、埼玉県支部から子育て支援事業のモデル奉仕団として指定されたこともあり、継続した事業へと展開されています。

活動の特徴として、次の2つがあげられます。まず、第1点目は、「奉仕団自らが市や学校に対し共同活動の呼びかけを行い、事業実施に向け積極的に行動し、開催にあたってはPTA関係者とも連絡を密にし、

鴻巣市役所福祉部福祉課長 草野 照子

親子で参加する形式を用い開催したことにあると思います。親子で学ぶことにより、親子間で防災に対する共有性をもてることに本事業の効果があるのではないかと考えます。

第2点目は、「青少年赤十字加盟校との合同事業としてはもちろんのこと、さらに、埼玉県赤十字災害救援奉仕団(特殊赤十字奉仕団)を交えた事業」という点です。地域赤十字奉仕団だけでなく特殊赤十字奉仕団が参加することで、赤十字事業の中心である、災害救援、救急法がより身近に感じられ、赤十字事業に対する理解も深まったのではないかと感じます。

この「親子防災教室」は地域子育て支援事業の活性化、防災意識の高まりにつながり、また、県内でも実施を始めている奉仕団も多くなっていると聞いています。今後はこの事業を埼玉県支部が中心となり、さらなる広がりを持つことを期待します。最後に、本事業に参加した子どもたちが、この体験により感じたこと、知ったことを大切に成長することを願っています。

DATA

支部 日本赤十字社 埼玉県支部

〒330-0062
埼玉県さいたま市浦和区仲町3-2-23
TEL : 048-829-2681
FAX : 048-834-1520
URL : http://www.saitama.jrc.or.jp/

● 職員数 26名(平成18年4月1日現在)



事業実施
までの
経緯

年6回、小児科病棟スタッフの
子育て応援講座

少子化の影響により小児科外来受診患者数、小児科病棟入院患者数がともに10年前から、徐々に減少してきました。静岡赤十字病院では小児科病棟スタッフが子育てを応援する為に、2年前から「キッズ相談」を月1回開催することにしました。「キッズ相談」は、お母さん方が自信やゆとりを持ち、子どもと関わっていく為のお手伝いをするものです。院内外の講師を招き、育児についての不安を取り除き、疑問にお応えしています。

その中の企画の一つとして「※幼児安全法」の短期講習があります。小児科外来という限られたスペースと、1時間という短時間の中で、幼児安全法の内容をいかに分かり易く、上手に伝えられるかを考え、3つの内容に細かく区切ってシリーズで行うことにしました。



た。他の講座内容とバランス良く組み合わせ、1〜2ヶ月に1回の割合で年6回実施することになりました。

*幼児安全法は、子どもを大切に育てるために、幼児期に起こりやすい事故とその予防、手当の実際、かかりやすい病気と看病のしかたなどの知識と技術を習得できます。受講については詳細はP.76〜P.77



事業の
内容

幼児安全法をわかりやすく、
短時間で講義と実技を

平成16年度より「キッズ相談」として実施していた事業を、平成17年度から「キッズ講座」と名前を変えて、午後の診療がない曜日の小児科外来で、小児科医師のお話やボランティアの外部講師によるベビーマッサージなどを月1回行ってきました。その講座の中に幼児安全法講習の内容を①日常生活しやすい事故とその手当②子どもに起こりやすい事故に対する救

第8回 キッズ講座

幼児安全法

日時 平成 17年 12月 12日(月) PM 2:00~3:00

場所 別館4階第1会議室

内容 子どもの起こりやすい事故に対する救命手当
心肺蘇生法(人形を使って、実際に練習します)

※手洗い・手拭い、口紅を塗ってご参加ください
※子供と一緒にご参加ください
※申し込みは小児科外来に電話してある用紙に記入して、申し込み箱に入れてください

申し込み手数料の場合は先着順とさせていただきます。

問い合わせ 7-1病棟
TEL (054)254-4311

命手当―心肺蘇生法③知っておきたい子どもの看病・手当の仕方として1時間の短期講習にまとめ最初は各2回ずつ計画しました。ポスターとチラシを作り、ポスターは病棟外来・玄関案内所前に、チラシは小児科産科の外来と病棟に、マミールーム(妊産婦相談窓口)にも配布しました。平成16年度は6回計画し、①の講習内容を2回、②は2回、③は1回実施。平成17年度は①を1回、②を1回計画し、実施しました。受講者は最小1名、最大10名と人数でしたが、短時間の中に講義と実技を盛り込み、内容の充実した講習を受けて頂くことができました。

平成17年度
「キッズ講座」実施内容

月	実施内容
4月	子どもに人気の遊び ・ふれあい歌あそび ・手あそび・指あそび・絵かき歌
5月	ベビーマッサージ
6月	幼児安全法 ・日常おきやすい事故とその手当 ・知っておきたい子どもの看病・手当のしかた
7月	休み
8月	広川医師講義 ・子どもの夏の病気
9月	薬の話 ・お子さんへの薬の上手な飲ませ方 ・2種類の坐薬をもちかけた時の注意 ・子どもに多く処方される薬の効果 ・副作用
10月	子どもの食事について ・栄養バランスについて ・子どもの好きなメニューの紹介
11月	ベビーマッサージ
12月	幼児安全法 ・心肺蘇生法
1月	こんな時どうしたらいいか ・夕暮れ泣きやひんや夕食の支度ができない ・乾燥肌の対処法 ・布団の枚数や服装 ・風邪を防ぐには ・発熱時・咳・下痢の時どんな判断 ・病院へ行った方がいいか
2月	鈴木医師講義 ・みみ・はなのごと―お母さんからの質問
3月	ベビーマッサージ

事業の
効果、成果

参加者は少なく
ても講習内容に
確かな手ごたえ

幼児安全法ミニ講習会は平成16・17年度で7回実施し、1回目は参加者1名のみでしたが、夫の転勤でベトナムに行くことになり、慣れない外国で自分でもできる応急手当を身につけたいと、とても熱心に受講されました。心肺蘇生法では、子どもを傍らに、実際の観察は自分の子どもでも行い、より身近に感じていただきました。患者サービスの向上には確実に効果がありましたが、口コミで広がったり、一般普及講習に繋がるどころまでは成っていません。

事業を行う上
での問題点、
今後の課題

広範囲なPR
と充実した
人員の確保を

小児科外来でのミニ講習会を定着させる為には、PRの方法を考える必要があります。年間計画をホームページに掲載し、ポスターをカラー刷りにして目立たせ、チラシも写真入りで、院内の色々なパンフレットと並べて置くようにしたいと思っています。実技を行うには10人が限度ですが、託児は子どもの年齢に応じて行っており、子どもたちの泣き声で集中できないこともあり、限られた外来の中だけでなく、必要な場所の確保、それに関わる人や物品の確保などが今後の課題となります。

赤十字病院の
連携、協力

病院・看護部
全面協力

小児科外来でミニ講習会を計画、開催するにあたっては、病院・看護部ともに全面的に賛同を得、協力体制をとって頂きました。病院のホームページに教室案内として、他の色々な教室や家庭看護講習会、幼児安全講習会などの講習会と並んでキッズ講座の案内をのせました。病棟の保育士でもある幼児安全法指導員が、勤務時間内に外来で指導員として活動し、その間病棟では看護師が保育士のカバーをしました。また、託児が必要時は外来看護師の協力も得ています。



▶ 乳児の場合

気管などに異物を詰まらせる
「誤嚥(ごえん)」事故。



「よく聞く話」に注意!!

- 1 ハイムリック法(みぞおちの下の横膈膜を突き上げて肺から空気を出して異物を押し出す方法)がいい?
- 2 逆さにして背中を叩いてもいい?
- 3 掃除機で吸い出してもいい?



事業実施のスケジュールと当日の流れ

病院、看護部と十分な連携をとり計画

当日までの流れ

- 3月 次年度前半期の計画を立てる
- 4月 計画(1時間で行える内容を考える)
- 4月 今年度の計画として届け出る
- 申請(病院・看護部・支部に届け出る)
- 許可(外来と密に進める)
- 広報(開催1ヶ月前にポスター!)
- 広告(申し込み用紙を準備。システム科に連絡しHPに掲載)
- 募集(基本的には開催前日まで)
- 受付(内容により人数制限あり、先着順)
- 準備(事前準備の確認)
- 当日(内容に合わせてシフトアウ)

当日のタイムスケジュール

- 13:00 待合室の椅子などの整理
ブルーシートを敷く
必要に応じて心肺蘇生法時に使用する訓練人形を支部より引き取り(2人に1体)
アンケート用紙、鉛筆を人数分用意
- 13:40 受付
- 14:00 あいさつ
講義—実技—質疑応答—まとめ
- 15:00 終了 アンケート回収
片付け
- 15:30 人形を支部に返却
評価、反省
- 16:00 報告書記入、提出

事業実施の際の注意事項

実用的な講習内容を
もつと多くの方に
体験できるように

●小児科外来でのミニ講習会は、診療のない時間帯の外来待合室の椅子を片付けて実施。院内1階の通用口側に位置しているが、しっかり間仕切りができていて、通路の雑音も入り難く、講習空間は作りやすくなっている。椅子を片付け、シートを敷き詰め、できるだけ広くし、心肺蘇生法では人形の数も多くして実技が十分行えるようにしている。

●寝かせられる子どもはシート上にタオルを敷き、母親の側に場所を確保。託児が必要なときは隣の特設診察室で外来看護師が託児に当たる。

DATA

- 事業の頻度1年/6回
- 参加人数10名
- ※活動の費用、財源
・広報の為にポスター、広告は病院で係りがパソコンで作成(病院負担)
・院内の指導員が勤務時間内に業務として施行の為、派遣費なし

地域紹介

富士やアルプスを望む
利便性に優れた地域に静岡県支部

支部のある静岡市は県庁所在地で、平成16年旧静岡市と旧清水市が合併し、平成17年政令指定都市となりました。さらに平成18年には由比町を挟んで旧蒲浦町とも飛び地合併され、人口72万余、面積1390平方kmの大きな町になりました。

市内は葵区、駿河区、清水区に分かれ、葵区の中心部に位置する徳川家康なごりの駿府城外堀と内堀の間には県庁があります。静岡県支部は、そこから北に向かって数分の所、静岡赤十字病院と隣接してあります。近くには中央警察署、消防署、市役所、図書館、銀行、繁華街などもあり、交通の便もよい所です。

東には富士山が望め、南には駿河湾が広がり、北には連なる南アルプスが望める、自然豊かな所となっております。

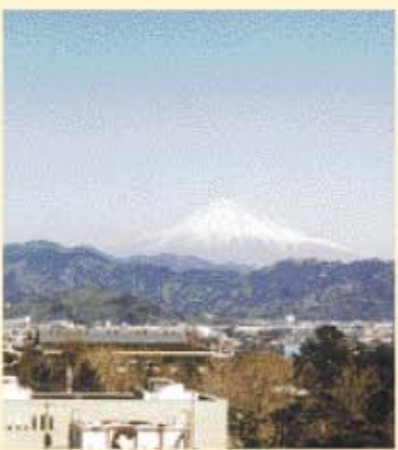


静岡県庁と駿府城

静岡市の活発な子育て支援活動、医療従事者の立場で事業開始

静岡市では平成11年県下初のNPO法人として『活き生きネットワーク』が設立されました。働く母親たちが中心となって、看護師さん、保育士さんをはじめ子育ての経験のあるお母さんたちに登録して頂き、会員さんの家でベビーシッターを行う紹介システムです。『病児保育』も行い、そのニーズも高く、仕事と子育ての両立をサポートする緊急サポートシステムができています。

病院では色々な相談を受けるため、患者サービスの環として、情報提供や、医師、看護師、保育士がそれぞれの相談を受け、医療従事者の立場で子育て支援を行うことを目的として『キッズ相談』を開設しました。



評価コメント

子育て支援 『キッズ講座』



静岡赤十字病院 小児病棟では、平成16年度から『キッズ相談講座』を行っています。これは母親や家族の子育てを支援する目的で、病棟看護師・保育士が子どもの育児やしつけ、病気のときの対応について話をしたり、医師による病気の話などを行っています。

18年度はすでに6回開催しました(11月末現在)。内容は4月「食育についてみんなで考えよう」5月「親子のふれあい遊び」絵本の読み聞かせ方」6月「家族でできるハンドマッサージ」7月「薬の話」薬の飲み方」8月「アトピーに対する治療法」11月「病気のときだつてあそびたい!」親子でクリスマス飾りを作ろう」でした。今後は、幼児安全法、冬の病気について、アレルギー食についてなどを予定しています。

最近入院した親子をみると、少子化・

静岡赤十字病院 7-1病棟
看護師長 鍋田 きぬこ

核家族化の影響があるのか、子どもの病気にどのように対応したらよいか分からず、夜間では相談する人もいない、という状況があるように思います。そして母親がイライラして子どもを叱る、自分の不満ばかりを言う親などもみられます。母親自身が多くストレスを抱えている状況があるといえます。その為、幼児安全法の内容である子どもの看病手当の仕方の講習、かかりつけ医を持つことのすすめ、夜間救急のかかり方などについての話も行っています。そればかりでなく、親子のふれあいがどんなに大切なものかを、『キッズ講座』の遊びや食事、ベビーマッサージを通して伝えています。

受講者は、子育てに不安があり悩んでいるのは自分だけではないことも分かり、終了時には「楽しく子育てをしていこうと思います」などの言葉も聞かれています。

母親が育児への自信を持ち、育児が楽しいと思えるような支援をしたい、子どもを事故や病気から守り、健やかな成長・発達を促すことは、私たちにとって大事な役割であると考えています。

DATA

支部 日本赤十字社 静岡県支部
〒420-0853
静岡県静岡市葵区追手町44-17
TEL : 054-252-8131
FAX : 054-254-5830
URL : http://www.shizuoka.jrc.or.jp/

●職員数.....20名(平成18年4月1日現在)

MAP



事業実施
までの
経緯

一時保育を備えた講習で
気軽に集える場を提供

少子・高齢化という社会の流れの変化に伴い、赤十字では平成12年度に、それまでの講習体系を整理して、幼児安全法を独立した講習としました。

当支部でも、開始当初より、幼児安全法講習の普及に積極的に取り組んできましたが、「小さい子どもがいるから」という理由で講習会に参加できない子育て中の方々の為に、安心して子どもを預けて受講できるように、一時保育を備えた講習の必要性を感じました。そこで、二期、有料のベビースタターを利用したこともありましたが、経費面での負担が大きいため、子育て支援ボランティアを養成することにしました。

この「赤十字子育て支援ボランティア」の特徴は、①自前で養成をする②当面の活動は、赤十字主催の幼児安全法講習やイベン

トなどに保護者が子連れで気軽に参加できるように「一時保育」を行う③将来的には、「赤十字奉仕団活動」として、地域の「子育て広場」などに、子育て中の親子が気軽に集える場を提供し、一時保育や育児相談などの地域密着型の活動を行うことです。



貼り絵を使って紙芝居(養成講座)

事業の
内容

登録ボランティアの
技術向上を目指して養成講座

1 子育て支援ボランティア養成
講座



平成15年度から隔年で開催しています。講座の内容は「保育ボランティアとしての心構え」「お話(絵本)の読み聞かせ方リズム遊び」「子どもの心の発達」「子どもの世話と遊ばせ方」「子どもの遊びとおもちゃについて」「子どもの食事」「子どもの病気とその対

応」緊急時の対応(心肺蘇生法)」「赤十字子育て支援ボランティア」とは「等で3日間の日程で各方面の講師を招いて開催しました。過去2回の講座修了後、赤十字子育て支援ボランティアとして登録された方は146名です。登録ボランティアには、平成16年度より、支部及び地区主催の幼児安全法講習開催時に一時保育の活動に参加していただいています。

2 フォロアップ研修

登録ボランティアの方の知識や技術の向上を目的に、平成16年



度より年1回1日の日程で実施しています。研修内容は、平成16年度は「絵本の読みきかせ」「幼児期と遊び」、平成17年度は「異年齢児保育について」「紙人形作成と遊ばせ方」でした。いずれの回も講演と体験して学ぶ内容で構成しました。

3 ステップアップ研修



今年度
初めての
取り組み
で、ボラン
ティアの
リーダー
養成を目的
にしてい
ます。
4回のシ
リーズも
ので、地
域で子育
て支援者

として活動中の方に、講師をしていただいています。1・2回の研修はすでに終了しましたが、「わらべうた」がテーマで、わらべうたを全員で歌ったり、手遊びをしました。3・4回は「絵本の読みきかせ」を予定しています。

事業の
効果、成果

登録者数の増加
と赤十字理解者
の拡大を実現

養成講座、フォローアップ及びステップアップ研修を開催することにより登録者数が増え、一時保育はボランティアの方の協力により実施できるようになりました。さらに一時保育付きの講習会の回数も増やせることとなり、子ども連れの参加者が徐々に増加しています。これらは、講習普及事業の伸展と赤十字の良き理解者の増加に繋がっていると思われま



事業を行う上
での問題点、
今後の課題

充実感や達成感の
ある活動を通じて
活動者を拡大

また、保護者の方からは、「講習に参加したかったが預けるところがなく困っていたところ一時保育が付いて助かりました。」「ボランティアの方がベテランという感じで安心して預けることができました。」などの声をいただきました。

過去2回の養成講座受講者のうち146名のボランティア登録者があったものの、実際の活動者は限られており(現在までに活動した人は第1回登録者が67%で、第2回登録者は38%)、活動できる人を増やすために、今後も継続して隔年で開催する予定です。しかし受講者の中には、赤十字の活動よりも、保育士などで自分の仕事のため、あるいは他団体での活動のための学習目的で参加している人も多いようです。今後は1回でも、2回でも一時保育の



講師の検討、②活動方法の見直し等が必要かと考えています。

活動に参加し、赤十字への理解を深めていただけるよう、働きかけの必要性を感じています。過去2回のフォローアップ研修は、第1回が79名、第2回は52名の参加がありました。今年度初めて企画したステップアップ研修の参加者は第1回が53名、第2回が65名でした。より多くの人に参加していただけるように、さらに魅力ある研修内容を企画する必要性を感じています。

活動していただいている人のアンケート結果からは、地域で子育て支援活動している人もいました。

一時保育の活動機会を増やすことが、充実感や達成感に繋がるものと思われま

課題は、赤十字の活動に積極的に参加していただくためには、

①魅力ある講座及び研修の内容、

②活動方法の見直し等

が必要かと考えて

います。

事業実施のスケジュールと当日の流れ

各方面の講師を招いて開催

- 事業実施までのスケジュール
1. 講座開催までの流れ
 - ① 子育て支援ボランティア養成講座
 - 開催1年前：講座内容の決定、講師の選定と依頼
 - 3〜4ヶ月前：広報用チラシを作成、広報活動
 - 2ヶ月前：公文書（講師宛など）の発送
 - 1ヶ月前：受講者名簿、修了証の作成、レジュメ、資料、必要物品の準備
 - 前日：会場準備
 - ② フォロアアップ・ステップアップ研修
 - 開催6ヶ月前〜10ヶ月前：研修内容の決定、講師の選定と依頼
 - 2ヶ月前：公文書（講師・受講者宛）の発送
 - 1ヶ月前：受講者名簿の作成、レジュメ、資料、必要物品の準備
 - 前日：会場準備

事業実施の際の注意事項

府下全域からの参加を可能に、広報を工夫

- 養成講座開催時には、府下全域からまんべんなく参加できるように、広報を工夫。
- 魅力ある講座とするために、講座内容、講師選択にも配慮。
- フォロアアップ及びステップアップ研修では、受講者が一時保育の場で直ぐに活かせる技術の向上に繋がる内容にするよう配慮。
- 事故を予防するため、ボランティアと子どもの比率は1対1にし、双方に保険に加入していただき、支部職員も参加し、事故には十分注意している。



DATA

● 活動の費用、財源、頻度、参加人数

1. 子育て支援ボランティア養成講座	
■費用・財源	第1回 合計3日間 157,576円
	第2回 合計3日間 202,658円
■頻度	1年/1回(隔年で実施)
■参加人数	第1回87名 第2回99名
2. 子育て支援ボランティアフォロアアップ研修	
■費用・財源	第1回 合計 82,417円
	第2回 合計 86,352円
■頻度	1年/1回
■参加人数	第1回79名 第2回52名
3. 子育て支援ボランティアステップアップ研修	
■費用・財源	第1回 合計 42,738円
	第2回 合計 31,527円
■頻度	1年/数回
■参加人数	第1回53名 第2回65名

地域紹介

府庁、合同庁舎に隣接 大阪城の大手門前に大阪府支部

大阪は古くから、水辺を通して人や文化が交流し発展を続けてきた「水の都」です。大阪市内を流れる河川は地域の約1割を占めると言われており、都心部には道頓堀川、東横堀川、堂島川、土佐堀川、木津川などが流れています。

そのような大阪市の中心地、上町台地に大阪のシンボル大阪城があり、支部はお城の大手門前に、府庁、合同庁舎と隣接しています。

子育て環境整備の遅れに積極的対応、府行政

我が国の少子化は一段と進み、平成17年度の合計特殊出生率は1.25で過去最低を更新しました。なかでも大阪は1.16で全国平均を大



だ⑤経験豊かな年配の方を保育の仕事現場で活躍してもらえないかなどがありましたが、多くの支援を求めている現状です。

きく下回っています。国を挙げて「少子化対策」が叫ばれている中大阪府では子育て環境整備に関するプランに取り組んでいます。しかし子育て環境整備に関する府民意識調査によると、乳幼児健診などの母子の保健サービスは進んでいるが、その他のいずれの質問においても整備が進んでいないという回答が得られており、すべての質問を総括すると、大阪は子育てをしやすい街だという人（どちらかというを含む）が54.4%でした。具体的な声としては、①子育てを気軽に相談できる場所が必要②親同士の交流の場が増えれば③育児において母親が孤立しない対策を進めてほしい④様々な面で子育てが難しい環境

評価コメント

地域の子育て支援事業



日本赤十字社大阪府支部の「子育て支援事業」は、子育て支援ボランティア養成という大変有意義な活動を意欲的に展開しています。国を挙げての「少子化対策」が叫ばれる中、「子育て支援事業」は、子育て環境整備の一端として子育て支援ボランティア養成を実施し、多くの登録者を確保しています。またこの事業では、引き続きフォロアアップ研修を実施し、登録ボランティアの知識や技術向上ができるようにきちんとした対応を行っています。

さらに、ステップアップ研修の実施を行うことにより、質の高いボランティアリーダーの養成へと展開しています。このように「子育て支援事業」の取り組みは、「人材確保」質の向上「リーダーの養成」と段階を踏むことで事業内容の向上へと繋がっていることが、特に高く評価されるものです。また大阪府支部では、近年問題になっている子どもの安全や子育ての悩みについて「幼児安全法講習会」及び「親と子のこころの相談室」を実施しています。こうした多角的で地道な活動は、「子育て支援事業」に関連する大切な取り組みとして着目すべき事項です。

「子育て支援事業」が評価される第1の点は、子育て支援ボランティアを独自で養成することにより、子どもがいても安心して預け様々な講習会

大阪総合保育大学 教授 大方美香

への参加ができるようになっていくことです。有料で人材を確保することがなくなり、より活動が容易になったことは特記すべきことです。

評価される第2の点は、子育てを気軽に相談できる場所、親同士の交流の場所など、「一時保育」が講習会に付設され、講習会への参加を契機として子育て環境の難しさを解決する取り組みとなっていることです。府民意識調査では「大阪は子育てがしにくい街である」という声が過半数を越え、その声に応えるには人材の育成であるという意欲は群を抜いており、高く評価することができます。

また経験豊かな年配者を活用してほしいという府民の声を人材として起用していきけるようにプログラムを作成し、ボランティアの質の向上に努め取り組んでいます。

評価される第3の点は、子育て支援ボランティアをリーダーとして、子育て中の親子が日常的に気軽に集えるような場の提供を推進し、今後「赤十字奉仕団」として一時保育や育児相談が地域密着型の活動として取り組んでいけるように、着々と計画し、実行していく礎ができていくことです。

こうした日本赤十字社大阪府支部の働きは、地道な一粒の種であってもやがて実を結び、これからの子育て支援の要となつて各地に蒔かれますことを祈念いたします。

「子育て、それは抱きしめたい、小さな温もり。親と子が一人じゃないよと思える生活。」

DATA

支部 日本赤十字社 大阪府支部

〒540-0008
大阪府大阪市中央区大手前2-1-7
TEL : 06-6943-0705
FAX : 06-6941-2038
URL : http://www.osaka.jrc.or.jp/

● 職員数.....39名(平成18年4月1日現在)

MAP



事業実施
までの
経緯

多くの母親が、参加しやすい
日時、場所などを工夫



「赤十字らしい、楽しくて役に立つ、そして、参加者に赤十字に対する理解を深めていただきたい」そんな少し欲張った子育て支援を目指したいと、大分県支部ではこの事業に取り組んでいます。平成17年度には「子育てふれあいトキング」と題して、子育て中の母親たちが、育児についての悩みや不安を語り合う子育て支援事業を実施しました。

は少し時間が短すぎるとの反省がありました。



子育て中の不安軽減
大分で看護師が事故
や病気の対処法紹介
日本赤十字社大分支部は、平成17年度には「子育てふれあいトキング」と題して、子育て中の母親たちが、育児についての悩みや不安を語り合う子育て支援事業を実施しました。

(大分合同新聞・平成18年10月19日掲載)



レクリエーションの講師は、青少年赤十字賛助奉仕団委員長が務め、初めに腹話術の人形で皆にご挨拶。子どもたちは珍しい人形に驚いた様子で大喜び。その後、ハート型に合わせた歌を歌ったり、折り紙で作ったカエルを飛ばしたり紙風船やコマで遊び、親子で楽しいひと時を過ごしました。

事業の
内容

レクリエーションや講義、
親子で楽しめる一日に

入れて自分たちで準備しました。水加減や空気の抜き方に苦心する方もいましたが、案内が簡単で準備ができることに皆さん感心していました。そして、大分赤十字病院看護師による「子どもの病気やけがの応急手当について」の講義では、看護師が身近な事故例や病気の時のお世話の仕方などを具体的に話し、お母さん方はメモをとったり質問したりと熱心に聞いていました。



事業を行う上
での問題点、
今後の課題

会場の広さやゆとり過ぎる部屋、
駐車スペースにも気配りを

今回の反省点として、託児を二間続き和室の片方(隣室)を使っていたので託児機能が十分発揮できなかったことや、部屋や駐車スペースの狭さが挙げられます。今後、託児を保護者と別部屋にして保護者がゆとり過ぎる配慮や、十分な部屋の広さや往

事業の
効果、成果

災害時の食事体験・病気時の対応、
非常食の試食も好評

また、災害時の食事体験では体験そのものや非常食の試食が好評でした。



復に車を利用する参加者が多いので駐車場スペースがとれる会場の選定が必要です。また、年に数回の開催や、県内各地域に向いて講座を行い、多くの方が気軽に参加できるように取り組むを展開していくことが今後の課題です。

そこで、平成18年度は、この集いが今後の仲間作りのきっかけになることを目標としました。内容は赤十字の特色を生かし、非常時の食事体験や昼食を共にしながらの子育て談義、育児に役立つ大分赤十字病院看護士による病気やけがの応急処置の講義を実施しました。そして、受講し

やすいように赤十字ボランティアの協力を得て、託児も行いました。一方、子育ての負担感や自信喪失は、共働きの方よりも専業主婦の方が高いというデータから、平日に、場所も参加しやすい地域の公民館で行うことにしたところ参加者希望者が多く、当初予定より定員を増やして行いました。

「赤十字 子どももすくすく一日講座」
楽しい子育て。でも、時にはストレスや不安を感じることも。赤十字では、子どもたちがすくすく過ごすために、子育てに悩むお母さんや病気の不安を少しでも軽減するためのお母さん、お父さん方の集いを開催します。

日時	平成18年10月17日(火) 10時~13時まで
場所	【大分西部公民館】 大分市王子新町5-1
対象	乳幼児を育児中の保護者(お母さん、お父さん以外の参加も可能です)
定員	15名(定員になり次第締め切ります)
内容	10:00~10:40 レクリエーション(親子で楽しく遊びましょう) 10:40~11:00 災害時の食事体験(特設会場に水と米を入れてお湯の中に入れると、あらいどろろ!ご飯が炊きあがります) 11:00~11:50 講義「子どもの病気やけがの応急処置について」 (講師:大分赤十字病院小児科 看護士) 12:00~12:50 昼食(おかずはレトルトのカレーを用意しています。お母さんと一緒に自分達で作ったご飯を食べながら、日頃の子育てについてお話ししましょう)
参加費	無料 ※当支部で参加者の傷害保険に加入します。 電話、はがき、FAXで参加者の氏名、子どもさんの年齢、住所、連絡先を10月19日(水)までに下記へご連絡ください。
申込、お問い合わせ方法	日本赤十字社大分支部 事業推進課 〒870-0033 大分市千代町2丁目3番31号 電話 (097) 534-2236 FAX (097) 533-6798
持参品	※ご連絡いただいた個人情報につきましては、当講座の目的以外には使用いたしません。 動きやすい服装、帽子、タオル、その他個人で必要な物

主催:日本赤十字社大分県支部、後援:大分県教育委員会

座談会

赤十字の特色を活かした子育て支援について

- 参加者**
- 別府子育て支援拠点施設「ほっぺパーク」保育所長 岡初美
 - 赤十字幼児安全法指導員 桑原千代美
 - 「赤十字子育てすくすく」日講座」参加者 中尾みさ子
 - 大分県青少年赤十字賛助奉仕団 委員長 福田克彦
 - 赤十字幼児安全法指導員 桑原千代美
 - 日本赤十字社大分県支部 総務課長 長野千年
 - 日本赤十字社大分県支部 事業推進課 主査 伊東淳子(司会)



日 時：平成18年11月9日(木) 11時～14時
会 場：日本赤十字社大分県支部 3階会議室

「また来たいね!」そんな言葉が残る”子育て支援活動”を実施

DATA

●活動の費用、財源

米 10kg	3,610円
レトルトカレー	5,775円
飲み物代	1,570円
子ども保険代	1,900円
(@100×19人分)	
講師交通費	3,660円
折り紙代	2,467円
その他雑費	2,167円
※会場費(大分市西部公民館)は免除	
合計	21,149円(支部負担)

●連携の状況
講義は、大分赤十字病院小児科病棟看護部(幼児安全法指導員)に依頼しました。

レクリエーションは、大分県青少年赤十字賛助奉仕団委員長に折り紙で作る小物の準備から担当してもらいました。
非常食体験は赤十字防災ボランティア2名が担当し、参加者への説明や包装食の出来上がりまでの管理をしてもらいました。
託児は赤十字防災ボランティア2名と看護部同方会奉仕団員1名が主となり行い、幼児安全法指導員2名には受付や紙芝居、託児をお願いしました。
また、青少年赤十字加盟校指導者のお母さんから手作り小物の寄贈をいただき参加者への土産にしました。

当日のタイムスケジュール

8:40	支部出発
8:55	会場到着、会場準備
9:40	受付
10:00	開会式
10:10	レクリエーション
10:40	災害時の食身体験
11:00	講義 子どもの病気やけがの 応急手当について
12:00	昼食、子育て談話
13:00	閉会
14:00	支部到着・片付け

当日までの流れ

7月中旬	開催要項(案)を作成
7月下旬	事業実施日の決定
8月初旬	場所の確保
8月中旬	教育委員会へ後援の依頼
8月中旬	大分市広報に受援者募集掲載依頼
8月中旬	ボランティア員へ協力依頼
8月中旬	病院職員派遣依頼
9月初旬	受援者募集の広報活動
10月初旬	参加者決定
10月中旬	具体的準備
10月下旬	事業実施
11月9日	座談会の実施

●事業実施のスケジュールと当日の流れ

2ヶ月前から準備。
市の協力を得て
実用的な講座を用意

●事業実施の際の注意事項

事故防止に十分注意。
支部負担で
セーフティ保険に加入

●多くの参加者を募る為、広報に力を入れて実施。今回は、大分市教育委員会の後援を受け、大分市広報や各報道機関への記事掲載依頼と大分市役所、市内各公民館、子どもルームへのチラシ設置とポスター掲載を依頼。

●実施に当たっては事故防止に特に注意。環境の整備や、託児を行うボランティアの人数の確保を十分行うこと、託児の際にも子どもたちから目を離さないように配慮。また、当支部負担でセーフティプログラム(保険(保険料1人100円)に加入。

地域紹介

温暖な気候と温泉を
身近に持つ大分県支部

日本赤十字社大分県支部は県都大分市に所在し、駅からは徒歩20分ほどの大分市中心街の近くにあり、その昔、北部九州一帯を支配した大友氏の拠点にもなっていた大分市は、南蛮貿易が盛んでキリスト教、西洋医学など泰西文化が開花した地です。現在は人口約46万人、18万世帯で、大きなビルが立ち並び県都らしい街になっています。



年間を通じて温暖な気候と、緑の多い自然に恵まれ、隣接の別府市を中心に温泉源が豊かで身近に温泉が楽しめます。

また、野生のニホンザルを自然の状態で見られる「高崎山自然動物園」や、たくさんのおいしい魚を眺めたり、動物たちの曲芸等を見ることが出来る水族館「海たま」は支部から車で20分ほどの所にあります。

核家族化の進行で
育児不安も増大

全国的に少子化が進行していると言われていますが、大分県においても平成17年度の合計特殊出生率は、1.39で、毎年減少を続けています。

また、核家族化も進み、祖父母と同居している人の割合は減り続けており、育児への協力が得られなかったり、育児について周囲に相談できる人がいない母親もいます。



大友宗麟像

赤十字の基本は、命を大切に
する子育て支援



伊東 今日
は、先日行
いました「赤
十字子ども
すくすく」
日講座」の
評価と、こ
れから赤十
字の行う子
育て支援に
どのような
特徴を生か
して、赤十
字の子育て
支援がどの
ようになら
うかという
ことについて
、皆様のこ
の意見を伺
いたいのど
うぞよろし
くお願いし
ます。

長野 今、広く子育て支援が行われていますが、赤十字においても平成16年度から支部を含めた子育て支援に取り組んでいます。現在、いじめによる自殺や幼児の虐待などが社会の中で問題となっていますが、赤十字では命を大切にしようという考えを大事に考えて子育て支援事業にも取り組んでいます。子育て支援において赤十字として今後もしっかりと

ろいろなことができると考えていますので、皆様の忌憚のないご意見をお願いします。

伊東 今日先日の講座に参加された4人の方と、別府子育て支援拠点施設「ほっぺパーク」保育所長の岡さんにお集まりいただきました。話を進める前に自己紹介をお願いします。

桑原 赤十字幼児安全法指導員の桑原です。先日は講座に参加させていただいて、大変有意義な一日を過ごさせていただきました。

中尾 小学2年と2歳の子どもの母親です。不慣れな点が多く、子育てをして7年目でやっとなんとなく子育てが分かったかなという感じがします。

佐藤 2歳の男の子を子育て中です。この座談会の参加を良い機会だと考えています。

岡 別府の子育て支援施設「ほっぺパーク」の保育所所長をしています。今日は赤十字の子育て支援について一緒に考えてみたいと思います。



福田 克彦

福田 私は赤十字の賛助奉仕団に所属している以外に地区の公民館長をしています。公民館でも子どもの居場所づくりということで、子育て支援事業を定期的に行っています。私は創作活動などを担当しており、学童保育などでも声がかかります。講座ではレクリエーションを担当しました。

緊急時の処置法はとても大事。親子一緒に遊びの時間にも癒された！

伊東 先日の講座の感想を聞かせていただきましたのですが、中尾さんいかがでしたか。

中尾 内容は非常に良かったです。ただ、託児が同じ部屋だったので講義が聞こえにくかったです。託児の部屋が別だと、講義がもっとゆっくり聞けて良かったですね。

伊東 お母さん方には子どもさんの姿が見えているほうが安心なのかなと考えたものです。今回は反省点だったと考えています。子どもさんの人数も多く、かなりにぎやかでしたね。

佐藤 私も別部屋で託児をしても良かったと思います。これは子どもの年齢によって違うかもしれません。ただ赤ちゃんだと親の目の届く所が安心だと思ってしまうが、私の場合はもう親から少し離れても大丈夫だと思えますので別部屋の託児が良かったです。でも、内容的にはとても良くて、緊急時の対処法など参考になりました。子どもも楽しく過ごして、レクリエーションでいただいた折り紙は家に帰ってから親子で一緒に遊びました。もっとレクリエーションの時間がほしかったです。また、欲を言えば心肺蘇生法を入れてほしかったです。

伊東 どういったことでこの講座に参加したと思われましたか。

佐藤 私は緊急時の対応法を学びたいと思ってきました。過去にも

もつと内容を煮詰めて行くと、赤十字の特色を生かした子育て支援としてすばらしいものになると思います。それと、こういう良い取り組みをしているのでからもつともPRをしてほしいですね。

ママさん同士誘い合って参加。子育て講習には託児所は必須です

伊東 PRについて伺いたのですが、佐藤さんはどのようなところから情報を得られるのですか。

佐藤 市報を見たり、子どもルームに行くところやチラシが置いてあるので興味があるものに参加します。ママさん同士の口コミで伝わることも多いです。今回の講座についても私は、6人に声をかけました。参加した方の半分は知り合いのママさんでした。

伊東 佐藤さんは日ごろ子どもさん遊ばせるときは子どもルームを利用することが多いのですか。

佐藤 ええ、そうです。子どもルームは週に3回位、県立図書館などに

何回か受けたことがあります。忘れてしまいます。本当に子どもが大変な時にちゃんとしたことができるようになりたいと考えています。今回公民館でチラシを見て「いいな」と思い参加しました。



中尾 みさ子

中尾 私も救急時の処置を知りたいと思いましたが、講習はなかなか参加できませんでした。でも、「今回一日で学べるならいいな」と思い参加しました。

伊東 レクリエーションは好評だったのですが、福田さんは担当されたいかがでしたか。

福田 私は親子のふれあいとして手遊びを計画していたのですが、実際には子どもたちの年齢差もあり、できそうにないと判断して内容を少し変えました。子どもの表情を見ると、腹話術は3、4歳の子には喜ばれますが、小さい子はびっくりする

も月に何回か連れて行きます。

伊東 中尾さんはどんなところから情報を得られるのですか。

中尾 新聞か市報からです。

伊東 催しに参加するときどのようなことがあれば参加したいと思われませんか。興味ある内容であることが一番ですが、それ以外にはどのようなことがあれば参加しやすいですか。

中尾 やはり託児ですね。ほかの行事に参加したときに託児がないので他の方の迷惑になり、途中でぬけるということがありました。託児がないと他の方に迷惑をかけるのではないかと気になります。

佐藤 私の場合、車でいきますので駐車場がないと困ります。

ようですね。私自身の勉強にもなって良かったです。

伊東 桑原さんはボランティアで参加されていたいかがでしたか。



桑原 千代美

桑原 毎日子育てをされている保護者の皆さんが集まられてレクリエーションをしたり、食事をしたりと

というのは気分転換になって有意義な時間ではなかったかと思えます。託児の件と部屋が狭かったこと、マイクを使えば良かったという点など小さな反省点がありますが、保護者の方の顔を見ると「ここに来て良かった」という気持ちで伝わってきました。帰る時にも親子ともども「また来たいな」という雰囲気を感じられました。このような事業を定期的に関心し、参加者を何組と制限せず希望者全員が参加できるように大きな催しになっていくと良いと思います。

「親子で楽しく過ごさせて、勉強になる」ことが条件

伊東 赤十字に望む内容として先ほど心肺蘇生法がでしたが、それ以外に何かこのようなことを望まれるものがありますか。

長野 心肺蘇生法については、皆さん興味があるのでしょうか。

佐藤 それは興味を持っています。

伊東 支部で幼児安全法という講習をしているのですが、ご存じなかったですか。

中尾 あの市報に載っている分ではないですか。

佐藤 参加しようと思いが、ついつい…ね。



佐藤 美保

伊東 子どもさんも親御さんも楽しんでながら勉強したいということでしょうか。



岡 初美

岡 今まで講座のビデオを見たり、皆さんのお話を聞かせていただきましたが、とても良い事業だと思えます。名称は違いますが、私たちも子育て支援事業を行っています。しかし、それと赤十字とはどこが違うのかを考えてみましたら、緊急時の対処法や災害時の食事体験などがとても楽しく行われていました。今後このようなところを



赤十字ボランティアによる託児風景

評論コメント

支部の子育て支援事業の内容は、主に「託児付き幼児安全法の講習会」と「防災訓練」でした。北海道支部や大阪府支部では幼児安全法講習なのに「小さい子どもがいるから」という理由で参加できない母親がいることを検討し、子育て支援赤十字奉仕団を組織しています。特に、大阪府支部の子育て支援ボランティア養成講座は、基礎講座、フォローアップ、ステップアップと3段階で人材を育成し、修了者を登録して計画的に人材を活用していること、育成した人材は、将来的には子育て広場や育児相談など、地域密着型の幅広い活動を目指しているなど、赤十字奉仕団の新たな活動を予感させてくれます。

また、北海道支部の活動はボランティアのためのマニュアルを作成し、事故予防や避難誘導にも配慮している点は、貴重な参考資料としての活用が期待されます。静岡県支部のキッズ講座は、小児科外来の空き時間を有効活用して、病棟看護師、保育士、医師がチームを組み、幼児安全法や親子ふれあいの大切さを伝えていく点、育児支援に対する病院現場職員の心意気を感じます。また、群馬県支部の活動は、行政の子育て支援講座に幼児安全法の講師を派遣し、住民ボランティア、行政、支部の連携による支援ネットワークが特徴でしょう。ここから支部の独自活動がどう生み出

されるか楽しみです。埼玉県支部の親子防災教室は、赤十字奉仕団が主体的に市や学校に働きかけ、PTAと連携し、応急手当と非常炊き出しを親子で体験する事業展開に赤十字奉仕団の行動力と発想の豊かさを感じました。大分県支部の1日講座は、2つの活動を1日で行うもので、参加しやすい公民館を会場に、奉仕団、ボランティア、看護師など赤十字組織の人材と経験をフル活用して実践している点が注目です。また、大阪府支部の心の相談は、いじめ、不登校など長年にわたる実績と、心の問題や対象の変遷に注目したいと思います。

各支部の子育て支援事業について

日本赤十字広島看護大学教授 飯村 富子

佐藤 できれば子どもも連れて一緒に参加したいです。

岡 今回の講座のように「楽しそうだな。参加してみようかな」というところからまず入って、親子で楽しく過ごせ、赤十字のことを知ることから赤十字の講習を受けてみようということにもつながると思います。必要だと分かっても赤十字幼児安全法の講習に参加することに踏み出せないことがあるのです。少し楽しく学んでみるのもっと詳しく勉強してみようという気持ちにもなります。親子で参加できて楽しめるということは大切なことです。

PRについても、参加したお母さん方の口コミで広がります。口コミは体験者の情報ですから確か度で確実に広がります。でも、その前に乳幼児を持つお母さん方の多く集まる場所に資料を置いたり、大きめのポスターを掲示することも大事です。

長野 赤十字の事業はボランティアの方の力によるところが大きく、今回の講座もボランティアの方が力を貸して下さったので行うことができました。今後、年に何回かの開催や



長野 千代

大分市以外での開催、また、他の団体や県、市町村との共催で事業を行うことや、シリーズとして何回か行うなどいろいろな方法が考えられます。皆さんのご要望を伺いながら検討したいと思います。

伊東 もし遠方で行うことになればボランティアでのお手伝いをお願いできるでしょうか。

福田 はい、私のほうは時間の都合をつければ大丈夫ですから。

桑原 また声をかけてください。

佐藤 いまさら聞けない質問コーナーもあると良いですね。育児をする中でどうかと思うことがあっても皆が知っていて訊くと恥ずかしいのではないかと訊けないこともありま

伊東 それも良いですね。いろいろと貴重なご意見をいただきありがとうございます。皆様からいただいたご意見を今後の事業に活かしていきたいと考えています。今後もしご支援をどうぞよろしくお願ひします。



DATA

支部 日本赤十字社 大分県支部

〒870-0033
大分県大分市千代町2-3-31
TEL : 097-534-2236
FAX : 097-533-6795
URL : <http://www.oct-net.ne.jp/~oitarc/>

●職員数……………11名

MAP





日本赤十字社が行う 子育て支援事業への提言

日本赤十字広島看護大学教授
飯村 富子

わが国は平成17年出生数が死亡数を下回り、人口の自然減という深刻な事態に直面しています。子育て支援は、生命を次代に伝え育むこととあり、今、社会に求められていることは、すべての子育て家族が、安心して子育てできるように社会全体で支援すること、子どもを守り育てることは社会の責任であるという意識改革です。そのために日本赤十字社ができることは何か、一人ひとりが考え、組織を挙げて取り組むことが今こそ必要です。

①現場の知恵を結集し、施設の活用や専門職による子育て支援事業を

本冊子の事例紹介にあるように

日本赤十字社は病院や社会福祉施設に、看護師、保健師、助産師、栄養士、保育士、医師などさまざまな子育ての専門職がいます。こうした施設や専門職の特性を活用して日中・夜間・病時保育、育児・食事・心理相談、各種講習会、施設の開放、地域との交流行事など子育て支援事業を現場の知恵と工夫で展開しましょう。

②赤十字ボランティアなどによる子育て支援

赤十字には青少年赤十字加盟校、青年赤十字奉仕団、地域赤十字奉仕団など、子どもからベテランまで、さまざまな年代の人々による組織がそろっています。こうした人たちが専門職や行政、社会福祉協議会

などと連携して子育て広場を運営し、乳幼児や母親に声をかけるだけで、見守りと笑顔の輪が広がります。また、青少年赤十字メンバー・青年赤十字奉仕団員が、乳幼児に触れる体験も、親になる貴重な経験となるでしょう。

③長期的展望にたった子育て人材育成で赤十字組織の活性化を

幼児安全法の講習など、赤十字は人材育成には優れた実績を誇っています。そのノウハウを子育てボランティアの育成に活かし、長期的展望にたった事業展開が出来れば、血液事業と並ぶ平時の代表的な赤十字活動として赤十字組織の活性化につながるものと思います。

